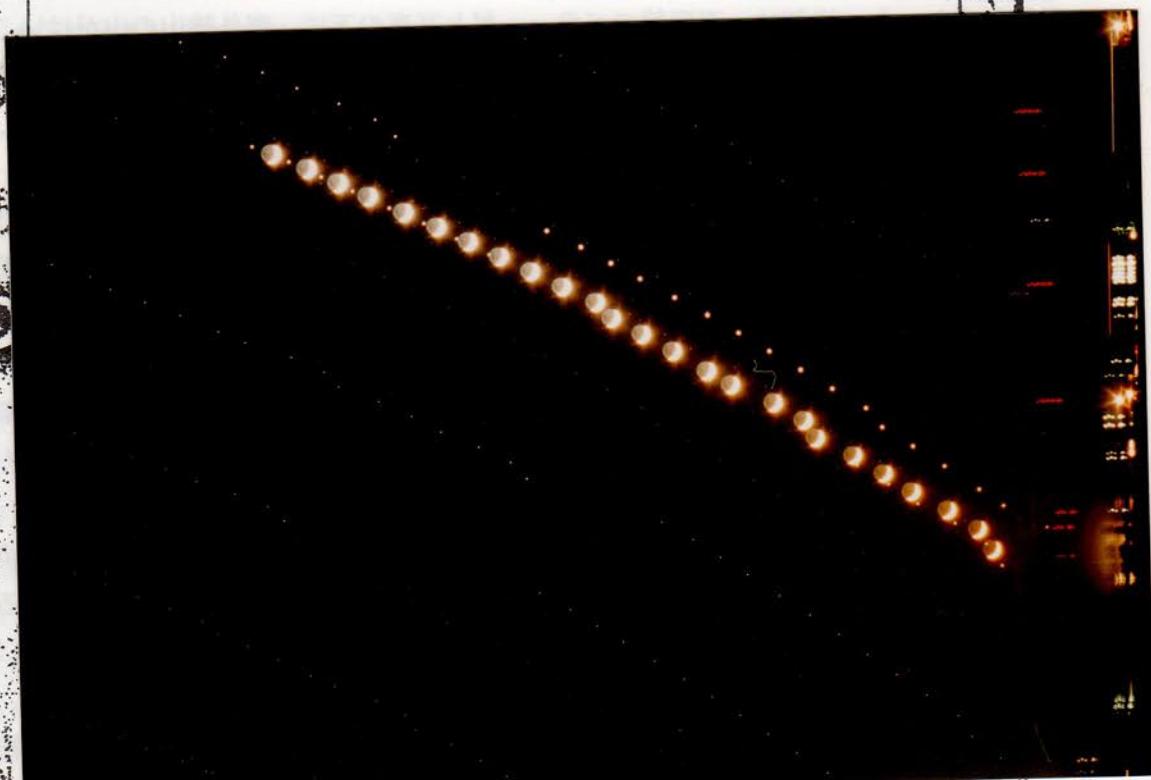


# 星屑

No.319  
Oct. '01



木星食  
撮影 高田祐一氏

熊本県民天文台

## 木星食に想う

高田祐一

8月15日の夜、木星食の前日の夜になって、ああそうだ「連続写真」を撮ろうと思い立った。思い立ったのは前日の夜どころではなく、あと数時間後には食が始まる時刻で、情報を仕入れようと慌てて「星ナビ」を開いて見ていたときのこと。そこには「連続写真で撮るのも良いです。F2で露出を1sにすると地球照も写ります」とか説明してあった。当初は、双眼鏡でベランダから観望をするだけにしようと思っていたが、急遽一眼レフカメラを引っ張り出し、ステラナビゲータで月の昇る時刻と食の経過中のカメラの画角を確認し、フィルムを探したら最近デジカメばかり使って賞味期限のすぎたものしかないことに気づきまあ途中コンビニで買って行こうと考えながら、準備を終えて一眠りに入った。午後11時。

今回の木星食を言うとき、マスコミでは「57年ぶり」という表現を使ったが、これはまったく誤解を与えるもので、これは「日本で」「夜間で」という但し書きがつく。明け方の薄明中だが18年前にも限界線すれすれの木星食があったのである。

このとき薄明が始まっているとはいえ少しでも暗い空をということで、熊本の地に注目が集まつたのである。ちょっと古い会員の方はご存じでしょうが、東京から富田弘一郎先生と「天文ガイド」のスタッフが来熊した。そして、前日4月29日熊本博物館で一般の人を対象に説明会を催されたの

であった。

日付は変わって16日午前1時半。起き出して空をみるとピーカンの星空。カメラ、三脚を車に積み込んでかけた。

連続写真のときは地上の風景をどのようにいれるかというのがポイントになる。阿蘇の山並みなどをいれるとそれはそれは良いのだが、そこまで遠出する元気はない。迷った末自宅からほど近い嘉島町の広がる田圃の中の農道に車を止めた。ここからだと写真の下に、南外輪山の山がはいることになる。吉無田高原をはしる高圧送電線の赤いランプがアクセントになるかもしれない。

まず、写真撮影の準備をしたのち、20x100の双眼鏡をセッティング、この双眼鏡も1999年のドイツ日食に持っていったきり久々の登場である。

月はまだでていない。空は快晴で東風が田んぼの水面の香りを運んできて気持ちいい。

いつもは天文台で星をみているが、全く解放された広い空間でしかも一人でみるのは久しぶり。

携帯電話で天文台に連絡をいれると、中尾のび太君がでて、艶島さんとビデオ撮影の準備中とのことだった。

阿蘇の立野の切れ目あたりからかなんとなく明るくなっているがまだ月がでる気配がない。

準備が終わると、暇になって18年前の木星食のときのことを思い出していた。自分は鹿本高校の地学部にいた。2年生。熊本県民天文台の設立の話は聞いていたが、

県北の高校生からみれば熊本市より南はいわば「地の果て」で自然関心は薄かった。熊本市にでてくるのも一仕事だったが、この日は博物館で木星食の説明会が開かれるとして聞いてでかけたのであった。このとき、会場で机やイスの準備をしていた人たちが、後から思えば熊本県民天文台のメンバーであったのだろう。高田にとって最初の遭遇であった。説明会後、すぐ高校に帰って望遠鏡とテントをもちだして観測にむかった。

阿蘇の山にはちょうど月が出てくるところに少し雲がかかっているらしく、雲は照らされているのに肝心の月がみえない。と、思っていたとき、によきと月が顔を現した。低い空でもきれいに見えている。やがてそれに寄り添うように木星がでてきた。

当たり前のことだが本当にくっついている。

午前2時26分（持ってきた時計の時刻で）から露出2秒で5分間隔で撮りはじめる。潜入まであと30分ほど。午前3時1分の撮影直後に木星本体が完全に潜入した。この様子はちょうど双眼鏡で経過をみるとことができた。

普通はいったん潜入すると出現までお気楽なのだが、連続撮影となる今回は違う。時計をみて5分間隔でシャッターを切り、三脚がぶれないようにフィルムを「巻く」。

（実際はフィルムは固定されているのだけど）人気のないところで撮っているのだが、遠方を走っている車のライトがちょうどこちらを向く時があって、1度や2度露出中に光がはいって失敗していないか冷や汗ものだった。

午前3時50分ごろ、月からイオが飛び出し、やがて木星本体が出てきた。今度は月の暗面からだったのでっきりわかった。

これで18年前の木星食のかたきをとったような気持ちになった。そう、18年前は、全国的に曇ってしまって、山鹿の教育センターの門の前にテントを貼って観測準備をしていたのだけど、それもむなしく曇ってしまったのであった。

教育センター前へ出かけたのは訳があつて、ここドームに入っている「大型望遠鏡」であわよくば木星食を見せてくれるのではという期待があったからである。外からみていると職員の人がドームを動かして準備をしているのがわかったが、自分たちが案内されることはない。このとき、どのように話を持っていったのかよく覚えていない。公の機関で夜中にそう部外者をいれるわけにも行かなかったのだろう。

しかし、そのとき自分は、「よし、将来万が一自分が大きな望遠鏡をもてて、『星が見たい』という人がいたら喜んでみてもらおう。」と思ったと覚えている。

それから2年半のち、大学生になりどういうわけか「地の果て」だった熊本県民天文台で運営委員をすることになっていたわけである。多少はこの木星食のときの決意が残っていたのだろう。

木星も無事？出現し、これで木星食の経過は終わりだが、連続撮影はまだまだ続く午前4時26分に撮影終了。家に帰って寝て、会社に行く途中でカメラ屋に現像にだした。できあがった写真は、カメラがぶれて、まるで酔っぱらいが歩いているようですね(^^)

## 星の停車場(10) こうま座・インディアン座

土山由紀子

秋の空は寂しいと言われますが、調べてみると、10月の午後8時に南中する星座は確かに暗い星座ばかりです。

上旬にインディアン座、こうま座、はちぶんぎ座、やぎ座、中旬にケフェウス座、下旬につる座、とかげ座、ペガスス座、みずがめ座、みなみのうお座。これら南中を迎える星座のうち、南天にあるインディアン座は一部しか見えず、はちぶんぎ座は全く見えません。やぎ座とみずがめ座は黄道12星座として有名ですが、明るい星座ではありません。ペガスス座の“ペガススの四辺形”と呼ばれる大きな四角形と、みなみのうお座の1等星フオーマルハウトのみが目立つ明るい星と言えるでしょう。

今回は、そんな秋の星座の中で、ひっそりと輝く2星座についてお話ししましょう。

まず、秋の空に高々と輝く小星座、こうま座から。

こうま座は、いるか座とペガススの頭の間にある、全天で2番目に小さな星座です。一番小さい星座、みなみじゅうじ座(南十字星)は日本から見えませんので、こうま座は私たちが見ることのできる一番小さな星座ということになります。星座絵を見ると、天馬ペガススの顔の横にこうまの顔が描かれており、まるでペガススと並んで走っているかのようです。

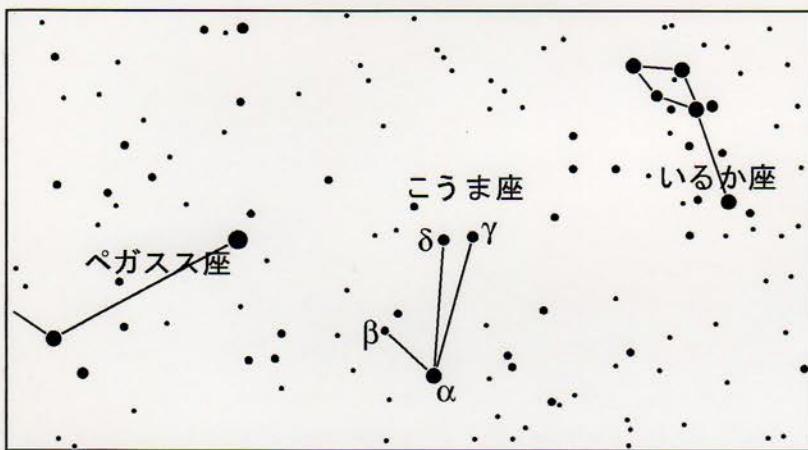
こうま座は暗い星ばかりの小さな星座ですが、古くから知られている星座で“トレミー(トレマイオス)の48星座”的一つ。

設定者はギリシアの天文学者ヒッパルコス(前190~前125)で、それ以前はいるか座の一部であったと言われています。 $\alpha$ (3.9等)・ $\beta$ (5.2等)・ $\gamma$ (4.7等)

・ $\delta$ (4.5等)で作る不等辺四角形は、決して明るくはありませんが、星が少ない領域にあるため意外に分かりやすい星座です。

こうま座についての神話はありませんが、星座となった馬については、以下のような説が知られています。

- ・伝令神ヘルメスが馬術の名人力ストルに贈った名馬で、ペガススの兄弟ケレリス
- ・ヘラがポルックスに贈ったキルラリス
- ・ポセイドンがアテナとアテナイの守護神の地位を競った際、三叉の鉢で岩を碎いて岩から出現させた馬
- ・旧約聖書「エステル記」4章に登場する馬



馬の頭だけしかないため、この星座は、ラテン語で“馬の一部(Sectio Equi)”“馬の頭(Equi Caput)”と呼ばれてきました。余談ですが、隣のペガススも下半身は雲の中ではやけていますね。ペガススより一足先に昇ってくることから“第一の馬(Equus Primus)”“前の馬(Equus Prior)”，ペガススより小さいことから“小馬(Equi Minoris, Equus Minor)”と呼ばれたりもしました。

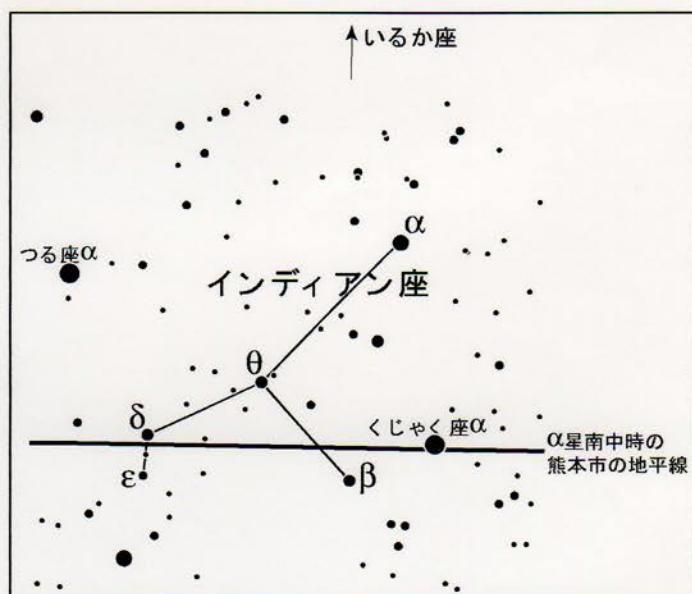
アラビア語でも、同じく“第一の馬”という意味のアル・ファラス・アル・アワル、ペガススより小さいことから“第二の馬”という意味のアル・ファラス・アル・ターニー、“馬の一部”という意味のアル・キトア・アル・ファラスという名が知られ、最後の名は $\alpha$ 星の固有名キタルファの語源にもなっています。

うさぎ座の項でもお話ししましたが、小星座では、星座全体の名前が一番明るい星の名として用いられることが多く、これもその一例です。

次に、非常にマイナーな星座、インディアン座をご紹介しましょう。

インディアン座はこう  
ま座のずっと南にあり、  
日本からは $\alpha$ 星(3.1等)  
 $\theta$ 星(4.4等)など一部を見  
ることができますが、最  
北の $\alpha$ 星でさえも熊本で  
の南中高度は10度。探し  
出すのは難しいと思います。  
固有名を持つ星もあ  
りません。

けれども、この星座は  
大航海時代の浪漫と苦難  
を忍ばせる南天きっての  
象徴的な星座なのです。  
日本では、昔“いんどじん  
(インド人)座”とい  
う名で呼ばれていたこと  
がありますが、この星座  
が指す“インディアン”はアメリカ先住民族のこと。1974年に現行の“インディアン座”  
に改められました。星座絵には、両手に矢を持った裸体のアメリカインディアンの姿が描  
かれています。もともと16世紀の航海者たちの間で知られていた星座を、ドイツのヨハン  
・バイエルが1603年に発行した『ウラノメトリア』において正式に書き表し、一般に知  
られるようになったといいます。



大航海時代。ヨーロッパではコロンブスのアメリカ大陸到達、マゼラン隊の世界一周など地理上の発見が相次ぎ、これに伴って南天の星空が知られるようになりました。けれどもこの時代の航海はたいへん厳しいもので、例えば1519年に237名でスペインを出発したマゼラン隊のうち3年後スペインへ生還したのはたったの18名。マゼラン自身も旅の途中で亡くなっています。

インディアン座は、こうしたスペインによる西半球への旅を記念して南天の星空の中へ置かれました。

# いかに安上がりに月のあばたを見るか

老人は過去に生きる の巻

長谷勇治

何十年前だったか、まだ塾や家庭教師などという言葉を聞くことなどほとんどなかつたよき小学校時代（戦後です戦後、念のため）、私の友人の多くは学研の「?年の学習」なる雑誌を学校を通して買っていました。しかし、私は「?年の科学」を取っていたのです。理由は簡単で顕微鏡だの鉱物標本だの付録につられてのことでした。

その付録の一つに”40倍望遠鏡”なるものがあったのです。学年は忘れましたが5年か6年だったと思います。紙の鏡筒で3cm程度のレンズが付いており架台はありませんでした。すでに小学校の図書室においてある宇宙についての本はほとんど読んでしまっていたのに望遠鏡と名の付くものは何も持たなかつた私は、喜び勇んで組み立て、わくわくしながら満月の日まで待って鏡筒を向けたのです。そう、何度も何度も満月の日を選んで見たのに、結局小学生の間に自分の目で月のあばたを見ることは一度もなかつたのです。筒の内側を黒く塗ったり、竹で丈夫な筒を作ったり、木切れで架台も作ったのにどうしても見えなかつたのです。

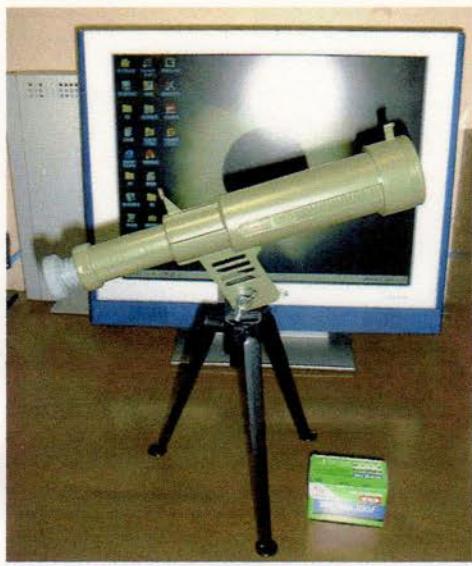
いつの間にか押入の奥にしまい込んでしまい、その存在さえ忘れようとしていた中学時代のことです。学校の帰りに月が出ているのを見て、ふと望遠鏡があつたことを思い出し、半月だけまあいいか、となにげなく覗いてみたのです。その時の感動は、その1年後に小遣いをはたいて買った8.4cmの反射で初めて土星の輪を見たとき以上のものでした。総天然色のぼけぼけの映像だったはずだし、クレーターも10個も数えられなかつたのですが、強烈な印象が残っています。それが私の天体観察の原点です。レンズは今でも探せばどこかに眠っているだろうと思います。

話は変わって私の娘は4年生です。夏休みに入り、自由研究は何をしようか、と悩んでいる様子です。

先日本屋に行ったら自由研究のタネ本がたくさん並べてあり、その中に懐かしの”?年の科学”がセロファン袋に入つて、きらきらと輝いていたのです。中でも4年の科学の付録は30倍ズーム望遠鏡でした。子供の勉強のためならばと、仕方なく、いそいそと1120円をレジで払つたのでした。実は同じ所においてあった、大人の科学シリーズとやらのマルコーニ式電波カーやエジソン式コップ蓄音機などのほうがよほど興味を引かれたのですが。

子供が組み立てたのを見るとずいぶん小型で昔のものに比べるとデザインもなかなか





です。対物レンズは径 36 mm のプラスチック製ですがすぐ後ろに 8 mm 程度の絞りがあります。つまり、レンズの大きさは見かけだけです。良心的とはいえるのでしょうか。その他にズーム及び正立像にするための中間レンズが 1 枚、接眼レンズに 2 枚あり、すべて凸レンズです。接眼部の抜き差しでピントを合わせ、ねじ込んである接眼レンズを回転させることにより中間レンズとの距離を変化させ、倍率を 2 倍ほど変更できます。しかし、目に見えて倍率が変わるような気はしません。何しろ鏡筒をある方向に固定することが至難の業ですから。

短い三脚はありますが実用にはならず、それは作った方も分かっているようでカメラ 3 脚に

取り付けることができるようネジが切ってあります。

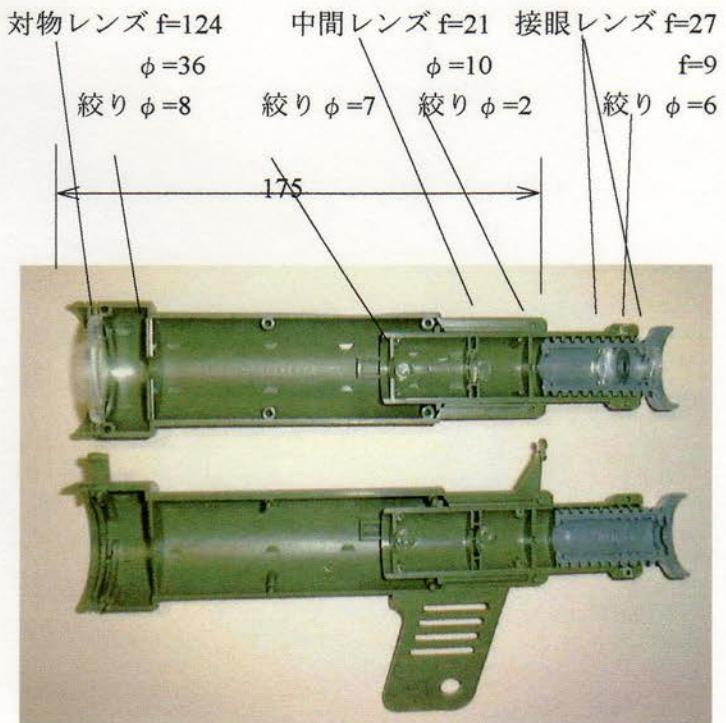
最後に見え味ですが、本当にん十年前を思い出す懐かしい色合いとボケです。以前紹介した 100 円均一の老眼鏡と使い捨てカメラのレンズを組み合わせた望遠鏡の方が明らかによく見えます。月のあばたはなんとか見えましたが倍率が高く、ピント合わせとズームが難問です。まあ、正立像になる、という点だけは評価できますが。

右に主要なデータをあげておきました。もう少し詳しく調べたいのですが、いかんせんデータを評価するだけの光学知識の持ち合わせが無く、これ以上の調査はできませんでした。

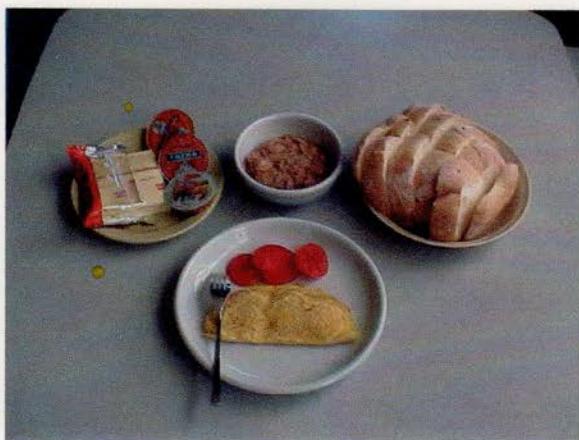
今回は制作記事ではなく、単なる紹介に終わってしまい心苦しい限りですが、たまには色収差の派手な望遠鏡を覗くのも懐かしいものです。

<<おまけ>>

100 円均一の文具売り場にペン先に緑色 LED が付いているボールペンがありました。結構闇夜でも字が見えます。観測家には役に立つかも。



前回はボスニアの飲み物についてお話ししたので、今回はボスニアの食べ物をご紹介しよう。まずは、朝食のメニューの中から。ほとんど毎朝、パンを食べていたが、



ボスニアの朝食を再現！

日本の食パンのようなものはない。ライ麦のパンやクルミが入っているパンなどが多く、それにチーズやクリーム、肉のペーストなどを塗って食べる。そして、チキンのハム（見た目は魚肉ソーセージのよう）、ツナ、サラダなども出される。オムレツや白身の魚のフレイが出されたこともあった。そして、前回お話ししたように、これにお茶やジュース、ネスカフェなどが付くので

ある。さて、ここからはボスニアで印象的だった料理のいくつかをご紹介しよう。

### ★ ピタ

これは日本で見かけられる「なんとかピタサンド」のようなものではなく、パイのことをボスニアではピタと言う。パイと言っても皮がしっとりとしていて、中に何も

入っていないものもあれば、肉のピタ、チーズのピタ、ほうれん草のピタなどがある。ピタは伝統的な家庭料理で、その形も棒状だったり、うずまき型だったりと、その家によって形が違うのだそうである。

私はピタが大変気に入ってしまい、「ピタっておいしいね～」と、おいしさに感動していたら「タツヤはピタ好き」というイメージが定着してしまった。

たよう、ボスニアでの最後の食事にも、ホストファミリーがお肉のピタにヨーグルトをかけた「スペシャルピタ」を用意してくれたりした。上の写真で中央のスプーンの右のお皿にあるのがピタで、あるホストファミリーのママのお手製である。（この写真には日本人のママが作ったちらし寿司とカレーも登場！）



ボスニアのピタ

## ★ チェバブチッチ



チエバブチッチ

これはインドのナンみたいなパンに、棒状のハンバーグのようなものやスライスした玉ねぎを挟んであるもので、このお肉がスパイシーでおいしかった。ボスニアで最もポピュラーなファーストフードと言った感じだろうか。中でもサラエボはチエバブチッチの本場なんだそうである。また、ボスニアではハンバーガーなどのファーストフード店を見かけなかったが、ある人が「ボスニアにはチエバブチッチがあるから

ハンバーガー屋はいらないのかもね」と言っていたのもうなずける。

## ★ ドルマ

ドルマはひき肉とお米を煮たものをピーマンなどに詰めた料理で、元々はトルコの料理だそうである。ピーマンの他にも玉ねぎに詰めたり、ほうれん草で巻いたりしたものもあった。ボスニアにお米を使った料理があるとは想像もしていなかったが、この料理はよく食べられているそうである。また、お米をピラフのようにして食べることもあるとか。

実は旅行の前には食事のことを心配していたのだが、日本食が恋しいと思うことも全く無く、食事のときには楽しいことも多かった。ヌードルが入ったスープを箸で食べて見せたら、ボスニアの人たちは目を丸くして驚き、みんな箸を使って戦闘しながら食べ始めたことや、ホテルのレストランで水が来なかつたので、ボスニアの子供たちと 'We want water!' とストライキ (?) をしてふざけたことなど。

ボスニアの思い出に浸りながら、今度、家でもボスニア料理作りにトライしてみようかな、と思っているところである。(終)

今回、私がボスニア・ヘルツェゴビナを訪問した Dobar dan Japan (こんにちは日本) という国際交流プロジェクトについてもっと知りたいという方はこちらをご覧下さい。

<http://www.efworld.net/>

# 熊本県民天文台運営委員紹介 のページ

今月号より、会員の皆さんに天文台のことをもっとよく知っていただくために運営委員紹介のページが始まります。これで天文台にこられたときも顔や名前がわかっているので話し掛けやすいですね。運営委員はみんな声をかけられると大喜びするのでどうぞこれで覚えて話し掛けやってください。今月はつい最近運営委員になった熊大天研のしかまくんです。

名前 鹿釜 崇裕（しかま たかひろ）

担当の曜日 土曜日

天文台歴 3年目

好きな天体 シリウス

運営の得意技 屋根を開けることができるようになりました。



とほほ…なできごと まだ新米なのが幸いしてとほほ…なできごとはありません。と思っていたのですが、つい先日、天文台のカギをなくしたと大騒ぎしてみなさんにご迷惑をおかけした挙句、カギは車の中から見つかるということがありました。とほほ…。

ひとこと こんにちは。新しく運営委員になりました鹿釜です。熊大天研の3年生で、法律を勉強しています。趣味はあてのない旅です。しばらくは、諸先輩方の運営技術を盗み取るための修行を積んでいこうと思っています。どうぞなかよくしてやってください。

## しかまが行く～原付放浪記～

これは去年の話なのですが、ふと思いつたって原付で旅に出ました。とりあえずシュラフと着替えの入ったバッグを持って出発しました。門司までは順調に行きましたが、関門トンネルを通ろうとすると入り口のおじさんにこう言われました。「原付は通れないんだよ。」え？俺のたびは、ここで終わりなの？「もうちょっと行くと、人道っていう人が通る道があるからそこを通ってね。」なあんだ、神様はいつでも道を残しておいてくれているのね。感謝感謝。まあそんなふうで人道につきました。でもあれれ？シャッターが閉まってるゾ。なになに、営業時間10時まで？時計の針は10時30分。かみさまのばか～！！結局しばらく居酒屋で時間を潰して近くの屋根付ベンチで寝ました。

こんな風にしてはじまったたびでしたが、次の日は国道2号線をひた走り（一部自動車専用道路があったので横道にそれましたが、それはカーナビならぬ勘ナビでクリア。）見事京都につきました。京都駅で寝ようと思ったのですが、駅前でバラバラを踊っているたくさんのひとが怖かつたので別のねぐらを探し始めました。その辺のお宮の裏で寝たのですが、次の朝早く誰かに起こされました。「こんなところで寝られちゃこまるんだけど。」警備員のおじさんでした。でもこのおじさん、とってもいい人で、帰ろうとする僕を自分の車で寝かせてくれました。感謝！

朝になってから観光しながら熊本に帰ることにしました。その次の次の日は広島で一泊したのですが、広島大学に知り合いがいたので泊めてもらおうと思って広島大学に行ったのですが、連絡先を書いた紙を家においてきていたのでどうしようもなく、ちょっと恐かったけど野犬出没注意の張り紙がいたるところにしてある広島大学で一夜を明かしました。次の日は営業時間内に関門トンネルを抜けて途中雨にあいましたが家に帰りました。

やっぱり旅はいいですね。みなさんもシュラフと着替え（1日分）さえあれば放浪できますのでやってみてください。きっと何かが変わります。ただし悪い方にかわっても保障はできかねます。おしまい

# 8月の県民天文台 ~運営日誌より~

開台率 14 日 / 15 日 = 93.3% 一般来台者数 164 名 会員来台 57 名

日付	天気	来客数	担当運営	記事
3日 (金)	うすくもり	5名	松野	月、火星、アンタレス、アルタイル ベガ
4日 (土)	晴	3名	艶島、中島 松本、中尾の 鹿釜、徳尾	月、火星
5日 (日)	晴	7名	高田、松本 中尾 (富) 小林 M	火星、M22、M7、アンタレス アルビレオ
10日 (金)	くもり 後雨	0名	松本、長谷	電話で1組来台されるとあり、開けていたら雨が降り出し、ぬれてしまった (全部) (松野)
11日 (土)	?	44名	中尾の、高田 中島、中尾と 西嶋	9時半、昨日の雨でぬれた2階を開けに來たら雨になった。10時すぎ、晴れたので開けました。何とか乾いたようですが、キーボードが不安です。12時前、降り出したので閉めました。(長谷) 火星、M13、アルビレオ。観測室がとってもくさかった!! (中島) 城南町家庭教育学級 16名 歴史民俗資料館 学芸員実習生&講座生 18名 その他 10名 15時より 16:30まで晴れていたので開けました (松野)
12日 (日)	くもり	富永 +1名	Tsu	9時より 12時まで開けて、観測室、毛布を乾かす (松野) 夕方から入道雲が広がり、雷ピカピカ。 「来台したい」と電話があったが、「今夜は星は見えません、次回」と応えた。先日撮影した月の写真を富永君にプレゼント。 (Tsu)
14日 (火)	快晴	安達 さん	中島、西嶋 立川、鹿釜 富永、Tsu	久しぶりに「〇〇の安達さんが来台」宴会となる(例によって)。今夜は透明度バツグンで久しぶりに天の川がはっきり見えている。デジカメでM22を撮る (Tsu)
15-16日 (水)	快晴	なし	Tsu、のび太	木製食観測。デジカメでビデオ撮影。出現時は月の動きの分だけ視野がズレしていく、途中からしか写っていません。 (Tsu)
17日 (金)	晴	4人	西嶋、長谷 松野	火星、アンタレス、M7 募金箱にお金を入れていただきました。 ACアダプタ付ライトを作りました (松野)

18日（土）	はれ	18名	中尾の、中島鹿釜、(西嶋)	火星、アンタレス、M22、M7、M8、M27、M31 M57、M13、M4、アルビレオ Talk About 艶島、西嶋、小林J、小林M、高田、影山 松本、土山、中島、鹿釜、上塚（♂♀）
19日（日）	はれ	3名 (高田 のしん せき)	艶島、小林、 高田、中尾ト	薄雲の中でスターウォッチング（7名） あまり見えないものですね。火星、M28。 台風の接近により風強し。（小林マ）
24日（金）	うす ぐもり	26名	中島、西嶋、 長谷、小林J、 松本、徳尾、 鹿釜	ボーアスカウト玉名 子供14名、大人12名 火星、月、アークトゥルス。まず1Fでパソコンのスクリーンで夏の星座、星の解説、その後、上で雲の切れ間の星見。月のクレーターは大うけでした。PCの模様替え、奥の部屋の模様替え。（西嶋） 8/25（土）14:00～ 城南町童話発表大会にて「電子紙芝居」を披露。城南町の民話2本 ① 塚原の99塚 ② 鰐瀬の湯
26日（日）	晴のち くもり	48名	艶島、中島 小林M、高田	豊野子供会33名、中学生2名、他13名 月（上弦）、火星、アンタレス 演目 「南の島のアムリガー」 「島の狩人たち」
31日（金）	晴	5名	西嶋、長谷 鹿釜	火星、アークトゥルス、アンタレス、月 アンドロメダγ、ベガ、WW 月があったわりにはいい空でした。 500円デジカメで星空。月、アンタレス アンドロメダγ モニタがないので写ったかどうか？（は）



←この猫と天文台は関係ありません。

いきなし朝夕が涼しくなりましたが、秋バテされてませんか？夏にいっぱい無理をすると、秋バテするんだそうで。しかし、最近はいろんな言葉が出てきますね。ところで、某気象予報では、今年は残暑が厳しいというお話でしたが、幸か不幸か朝夕は涼しいです。あとは台風の被害が少なければ良いのですけどね。あ～、梨が旨いです。

☆H13年度分の会費納入をお願いします。正会員8000円 友の会会員5000円☆

### ★ 10月の天文現象＆行事★

- 1日（月） 中秋の名月
- 2日（火） 満月（22：49）
- 5日（金） 変光星わし座Rが極大（周期284日 5.5等～12.0等）
- 8日（月） 仙台以北で土星食（03：32～） ジャコビニ流星群が極大のころ  
寒露（かんろ…秋涼増長し、寒くなり露を結ぶ）
- 10日（水） 下弦（13：20）
- 11日（木） 木星が西矩（-2.3等 視直径39.4'） アルゴルが極小
- 12日（金） 変光星白鳥座R Tが極大（周期190日 6.0～10.1等）
- 14日（日） 水星が内合（5.2等 視直径10.1'）
- 17日（水） 新月（04：23）
- 20日（土） 秋の土用
- 21日（日） オリオン座流星群が極大
- 23日（火） 霜降（そうこう… 露は霜と化して草木の葉は黄変するという意味で霜降）
- 24日（水） 上弦（11：58）
- 29日（月） 十三夜（栗名月）
- 30日（火） 水星が西方最大離角（18°33'9'' -Q5等 視直径6.8'）  
金星と水星が最接近（07：13） 火星が東矩（-Q5等 視直径8.9'）

熊本県民天文台機関誌 「星屑」 2001年10月号 通巻319号

発行所 熊本県民天文台事務局 ☎ 861-4226

熊本県下益城郡城南町塚原古墳公園内 熊本県民天文台

TEL 0964-28-6060

振替口座 01980-0-24463

熊本県民天文台事務局 担当 中尾 富作

ホームページ <http://astro.magma.ad.jp/>